



ブラジルの政策金利の引き下げについて

ブラジル中央銀行は、現地 2017 年 1 月 10 日・11 日に開催された COPOM(金融政策委員会)において、Selic(政策金利)を 0.75%引き下げ、年率 13.00%とすることを全会一致で決定したと発表しました。今回の利下げは、市場予想を上回る大幅なものとなり、政策金利は約 2 年ぶりの低水準となりました。

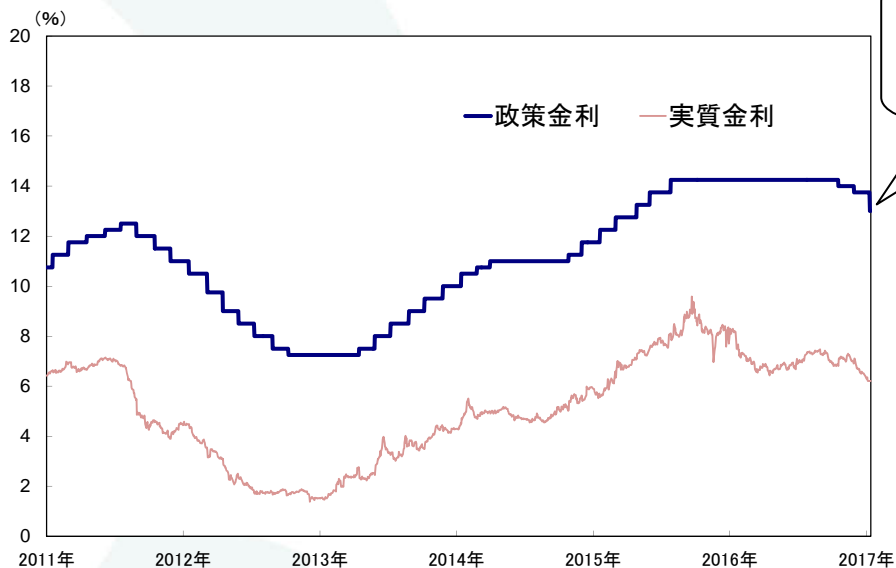
今回の利下げ幅は、昨年 10 月に始まった現在の金融緩和サイクルでは最大となりましたが、これは、鈍化傾向にあるインフレ率を受け、ブラジル経済の再生を最優先するという、同中銀の強い意思表示と見られます。

声明では、景気支援および経済の活性化を目指すために、予想を上回る大幅利下げによる新たな金融緩和のサイクルを進める事が適切であると述べています。

今回の利下げは、現地 11 日ブラジル株式市場の取引時間終了後に発表されました。また、足元のブラジルリアルは対ドルおよび対円ともに小幅な動きとなっております。

次回、2 月下旬に COPOM の開催が予定されていますが、国内景気の状態およびインフレ動向などを踏まえた更なる金融緩和への可能性も含めて、市場動向を注視してまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移
(2011年1月～2017年1月11日)



2017年1月11日
13.75%→13.00%へ
0.75%の引き下げ

*政策金利:Selicを使用。*実質金利:名目金利とインフレ率を使用し算出
*出所:ブラジル中央銀行のデータよりBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社作成

本資料のお取り扱いにおけるご注意

- 本資料はBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社が上記の時点に作成したものです。特定の金融商品の取得勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。
- 本資料中の情報は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

